

## 1720 | 道徳教育の理論と方法

(旧科目名：道徳教育の研究)

2 単位 (通信授業 2 単位)

高橋陽一教授、大間敏行講師

### 授業の概要と目標

本授業科目は、道徳に関する人間と社会の在り方を考え、学校における道徳教育の意味を探求するものである。道徳が社会の中で果たす意味を歴史と現代社会において検討し、それをもとに、学校教育において道徳教育とはいかにあるべきかを考える。「道徳」なるものが自明の前提ではなく、研究され、そして課題となるものとして深く考察する姿勢が望まれる。

### 課題の概要

#### ○通信授業課題 1

「道徳とは何であったか」

歴史上の事象でも、個人の体験でも、あるいは作品の中の世界でも、「道徳」が如何に語られ、それについてどう考えるかを教科書と学習指導書を踏まえて論じること。学校教育以外のテーマでよい。

#### ○通信授業課題 2

「学校で道徳をどう教えるか」

中学校又は高等学校において、道徳をどう教えるかを考えるレポート。かならず授業の目的と時間配分、教材について明示すること。その他学習指導書で示された条件をふまえること。

\*課題については学習指導書を必ず参照すること。

### 授業計画

#### [通信授業]

教科書『道徳科教育講義』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。具体的な通信授業課題は学習指導書に説明しているので、十分に読んでほしい。

### 成績評価の方法

#### ◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

### 履修条件及び履修年次

[履修年次] 3～4年次

[履修条件] 教職課程に登録していること。

[備考] 3年次の履修が望ましい。

### 教材等

教科書：高橋陽一・伊東毅『道徳科教育講義』（武蔵野美術大学出版局 2017年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』（出版社未定 2017年）

※刊行され次第配付する。

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成30年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

### その他

通信授業課題については『学習指導書』の説明を十分に理解して取りくむこと。

# 1730 | 特別活動の理論と方法

(旧科目名：特別活動の研究)

2 単位 (通信授業 2 単位)

橋本萌講師

## 授業の概要と目標

本授業科目は、「特別活動の指導法」(教育職員免許法施行規則)を内容としている。特別活動についての全般的な理解を深めると同時に、特別活動が抱える今日的課題を受講者の問題意識に沿いながら考察する。教科書では、「学級(ホームルーム)活動」「生徒会活動」「学校行事」のもつ問題点を個々に取りあげながら、特別活動という領域のもつ内容的広がりを多様に構想できるようになることを目標とする。その上で、教育の現状に対する自分なりの視点・視角をもつことができるようにする。

## 課題の概要

### ○通信授業課題 1

教科書を踏まえて、「学級(ホームルーム)活動」「生徒会活動」「学校行事」について個々の現状を把握する。その上で、「批判」「分析」「提言」の三段階をもって考察し、「私のつくる特別活動」の構想を課題とする。

### ○通信授業課題 2

教科書を踏まえて、学校教育の抱える今日的課題(特別活動に関する)を自分なりにまとめる。その際に、自分固有の問題意識をもつことを条件とするが、「自主性と共同性」という視点からの考察が望ましい。

\* 「問題意識」：自分がこだわっている考え方、価値観など。

\* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

\* 必ず「タイトル」を記載すること。

## 授業計画

### [通信授業]

教科書『未来の教師における特別活動論』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

- 第1章 「特別活動」とは何か
- 第2章 学級活動・ホームルーム活動(その1)
- 第3章 学級活動・ホームルーム活動(その2)
- 第4章 学級活動・ホームルーム活動(その3)
- 第5章 生徒会活動
- 第6章 学校行事
- 第7章 クラブ活動と部活動
- 第8章 諸外国の教科外活動

## 成績評価の方法

### ◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 教職課程に登録していること。

[備考] 2年次の履修が望ましい。

## 教材等

教科書：伊東毅『未来の教師における特別活動論』(武蔵野美術大学出版局 2011年)

文部科学省編『中学校学習指導要領解説 特別活動編』(出版社未定 2017年)

文部科学省編『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』(出版社未定 2017年)

※刊行され次第配付する。

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成30年度』

(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年)

## 1740 | 生活指導の理論と方法

2 単位（通信授業 2 単位）

（旧科目名：生活指導の研究）

渡辺典子講師

## 授業の概要と目標

本授業科目は、「生徒指導の理論及び方法」と「進路指導の理論及び方法」（教育職員免許法施行規則）を内容としている。指導の背後にある基本的な理論をふまえた上で、生活指導の歴史的・社会的意味について考察する。さらに、学校教育をめぐる諸問題に対する関わりを考えることを通して、主体形成の問題に迫っていききたい。

## 課題の概要

## ○通信授業課題 1

「教員として子どもに関わる立場から、学級崩壊現象について論じなさい」

上記の課題について、教科書を参考に論述すること。

## ○通信授業課題 2

「児童・生徒の主体性をどのようにのばすかについて述べなさい」

上記の課題について、教科書を参考に論述すること。

\* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

## 授業計画

## [通信授業]

教科書『新しい生活指導と進路指導』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

第 1 章 生活指導とは何か

第 2 章 進路指導とは何か

第 3 章 生活指導と進路指導の法律と政策

第 4 章 不登校

第 5 章 いじめ

第 6 章 ジェンダーと学校

第 7 章 多文化教育と学校

第 8 章 学級崩壊

## 成績評価の方法

## ◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 教職課程に登録していること。

[備 考] 2 年次の履修が望ましい。

## 教材等

教科書：高橋陽一・伊東毅編『新しい生活指導と進路指導』（武蔵野美術大学出版社 2013 年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 30 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018 年）

1750

## 教育相談論

2 単位（通信授業 2 単位）

伊東毅教授

## 授業の概要と目標

本授業科目は、教育職員免許法施行規則上の「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」に相当するものである。教育相談やカウンセリングの理論・実践を、その歴史的経緯をおさえながら学ぶことを目的とする。教育相談やカウンセリングの成り立ち、及びこれらが立脚する基礎理論を学ぶことからはじめ、いじめ・不登校・非行などの諸問題にかかわる具体的な実践をも考察していく。

具体的な到達目標は、(1) 学校における教育相談の意義と理論やこれに関わる心理学の基礎を理解し、(2) 生徒の不応答や問題行動の意味を知るとともにそのシグナルを受けとめる方法を理解するとともにカウンセリングマインドの必要性と基礎的技法を理解し、(3) 生徒や保護者に対する教育相談の目標の立て方や進め方を例示することができたり、諸問題に対する発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方や各機関との連携の意義や必要性を理解すること、である。

## 課題の概要

## ○通信授業課題 1

「フロイトに基礎を置く精神分析療法とロジャーズに基礎を置くカウンセリングのそれぞれの特徴を指摘した上で、それらのメリットおよびデメリットについて論じなさい。」

上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

## ○通信授業課題 2

「いじめ・不登校・非行などの教育問題に対して、どのような教育相談の方法やシステムが有効か、これまでの文部科学省（含かつての文部省）の対策にも触れながら論じなさい。その際、議論を具体化するために、一つの教育問題に焦点を絞ってもよい。」

上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

\* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

## 授業計画

## [通信授業]

教科書『新しい教育相談論』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

- 第1章 教育相談とは何か
- 第2章 教育相談をめぐる学校教育政策の動向
- 第3章 教育心理学の基本
- 第4章 発達理論の基本
- 第5章 友人関係・社会性の発達
- 第6章 発達障害の理解と支援
- 第7章 カウンセリングの基本
- 第8章 心理療法の理解
- 第9章 いじめの実態と対策の動向
- 第10章 不登校の実態と対策の動向
- 第11章 非行少年の実態とその処遇
- 第12章 問題行動とカウンセリング
- 第13章 道徳教育と教育相談
- 第14章 多文化をめぐる対応
- 第15章 宗教と多文化をめぐる学校教育政策の動向

## 成績評価の方法

## ◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

---

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 教職課程に登録していること。

[備 考] 2年次の履修が望ましい。

---

教材等

教科書：高橋陽一・伊東毅編『新しい教育相談論』（武蔵野美術大学出版局 2016年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成30年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

## 1770 | 教育実習 I

2 単位 (面接授業 2 単位)

大坪圭輔教授、三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授

## 授業の概要と目標

本授業科目は、中学校又は高等学校において行う教育実習である。教育実習は、実習校においてその学校の指導教諭の指示のもとで、観察実習、授業実習、研究授業等の形態で行われるものである。しかし、実習生は、その学校の生徒にとっては教師を目指している人、つまり「先生」としてみられるのであり、実習生の高い自覚と十分な研鑽が求められる。

なお教育実習は 4 年次に実施され、高等学校免許状のみ取得する場合は本授業のみの 2 週間であるが、中学校免許状を取得する場合は引き続き「教育実習 II」と併せて 3 週間又は 4 週間の実習となる。

## 課題の概要

## ○面接授業課題

実習に当たっては、『教育実習日誌』に毎日の実習を記録し、指導教諭の点検を仰ぐ。この『日誌』が実習校を通じて大学に提出されることとなる。

## 授業計画

## [面接授業]

「教育実習 I」のみの場合は 2 週間又は 3 週間、「教育実習 II」と併せて行う場合は 3 週間又は 4 週間にわたる。日程や具体的な実習内容などは各実習校により異なる。

## 成績評価の方法

実習校より提出された評価をもとに、『教育実習日誌』などを勘案して採点する。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 4 年次

[履修条件] 教職課程に登録していること。

「教育実践の研究」の第 1 回から第 3 回の事前指導をすべて受けた 4 年次の者に限る。その他『教職課程ガイドブック』に示された教育実習受講資格を満たしていること。

[備 考] なし

## 教材等

『教育実習日誌』（武蔵野美術大学通信教育課程）※「教育実践の研究」第 3 回面接授業時に配付

## その他

教育実習にあたっては多くの注意事項や手続きがあり、大学の指導を守り、必要な条件をみだす場合のみ実習を行うことができる。また実習校の選定や各種の調整など、学生の責任において行うことが多い。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。

1780

## 教育実習 II

2 単位（面接授業 2 単位）

大坪圭輔教授、三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授

## 授業の概要と目標

本授業科目は、「教育実習 I」に引き続き、中学校又は高等学校において行う教育実習である。教育実習は 4 年次に実施され、高等学校免許状のみ取得する場合は「教育実習 I」のみの 2 週間又は 3 週間であるが、中学校免許状を取得する場合は引き続き「教育実習 II」と併せて 3 週間又は 4 週間の実習となる。

## 課題の概要

## ○面接授業課題

実習に当たっては、『教育実習日誌』に毎日の実習を記録し、指導教諭の点検を仰ぐ。この『日誌』が実習校を通じて大学に提出されることとなる。

## 授業計画

## [面接授業]

「教育実習 I」と「教育実習 II」と併せて 3 週間又は 4 週間となる。日程や具体的な実習内容などは各実習校により異なる。

## 成績評価の方法

実習校より提出された評価をもとに『教育実習日誌』などを勘案して採点する。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 4 年次

[履修条件] 教職課程（別表第 1 適用の中学 1 種 [美術]）に登録していること。

「教育実践の研究」第 1 回から第 3 回の事前指導をすべて受けた 4 年次の者に限る。その他『教職課程ガイドブック』に示された教育実習受講資格を満たしていること。

[備 考] なし

## 教材等

『教育実習日誌』（武蔵野美術大学通信教育課程）※「教育実践の研究」第 3 回面接授業時に配付

## その他

教育実習にあたっては多くの注意事項や手続きがあり、大学の指導を守り、必要な条件をみだす場合のみ実習を行うことができる。また実習校の選定や各種の調整など、学生の責任において行うことが多い。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。

1790 2100 2110	<h2 style="margin: 0;">教育実践の理論と方法</h2> <p style="margin: 0;">(旧科目名：教育実践の研究)</p>	1 単位 (面接授業 1 単位)
大坪圭輔教授、三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授		

**授業の概要と目標** 本授業科目は、教育実習の事前事後指導である。教育実習を行うにあたっての基礎的な知識と心構え、実習校との各種手続を含む事務的な連絡などをオリエンテーション形式で行う。

**課題の概要** ○面接授業課題  
第1回・第2回の面接授業を受けるに際して、月刊誌『武蔵美通信』別冊『スクーリング持参物』により告知して予めレポート課題を指定し、当日これを回収する。課題は、教育実習にあたっての準備や心構えなどに関するもので、テーマは適宜指示する。

**授業計画** [面接授業]  
教職課程登録年次から4年次（教育実習受講年度）にかけて合計3回の授業すべてに順番に出席すること。

第1回 教職課程登録年次  
教育実習の理念と実際、教育実習までの日程概要、美術・情報に関する視聴覚教材の上映、第1回小論文提出

第2回 3年次（教育実習前年度）  
教育実習の事前学習の指導、教育実習についての視聴覚教材の上映、模擬授業の実施、教育実習までの各種手続の説明、第2回小論文提出

第3回 3年次（教育実習前年度）：冬期スクーリング 又は  
4年次（当該年度後期教育実習予定者）：夏期スクーリング  
教育実習の直前指導、美術・情報についての視聴覚教材の上映、模擬授業の実施、各種手続の説明

事後指導（4年次 通信の方法による）  
教育実習終了報告書の提出

**成績評価の方法** 提出された小論文及び出席状況、教育実習終了報告書によって採点する。

**履修条件及び履修年次** [履修年次] 下表参照  
[履修条件] 教職課程に登録していること。  
下表のとおり履修登録し、面接授業第1回～第3回に順番に1回ずつ出席すること。

[備 考] 面接授業第2回と第3回は、同年度の春期・夏期スクーリングでは受講できない。よって、第2回を春期または夏期スクーリングで、第3回を冬期スクーリングで受講することができる。  
後期に実習を行う場合は、面接授業第3回を実習年度の夏期スクーリングで受講することができる。  
教育実習後に本学指定様式の「教育実習終了報告書」を提出し、合格する事によって、単位修得となる。  
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

<各年次の履修登録と面接授業の受講回>

年 次	履修登録科目	受講する面接授業
教育課程登録年次	教育実践の理論と方法(1)	面接授業 第1回（春期または夏期）
3年次（教育実習前年度）	教育実践の理論と方法(2)	面接授業 第2回（春期または夏期） 面接授業 第3回（冬期）
4年次（教育実習受講年度）	教育実践の理論と方法	面接授業 第3回（夏期） （当該年度後期実習者のみ）

---

教材等

『教育実習日誌』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程）※第3回面接授業時に配付

---

その他

実習校の選定や各種の調整など、学生の責任において予め行うことが多い。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。

## 2270 | 教職実践演習(中・高)

2 単位 (通信授業 1 単位、面接授業 1 単位)

大坪圭輔教授、三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授

## 授業の概要と目標

本授業科目は、教育実習を行った者が免許状を受ける前に学校教育全般と免許科目(中学校美術、高等学校美術・工芸・情報)にわたって、自分自身の教育実習を踏まえて教員としての能力の向上の課題を把握して、教育現場で指導力を発揮するための演習科目である。具体的には、オリエンテーションを受講し、通信課題のレポートを作成して合格し、面接授業では演習に参加して発表や討議を行って、教職課程の「総まとめ」「総仕上げ」を行う。

## 課題の概要

## ○オリエンテーション課題

指定された様式に基づいて「教育実習の概要」(A4判1枚)を当日に提出すること。

## ○通信授業課題

「教科教育以外の教育実習の反省」

上記の課題について、行った教育実習と教職課程の各科目の教科書を参考に論述すること。

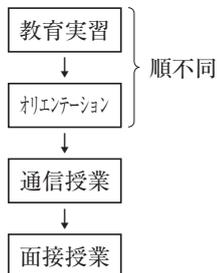
## ○面接授業課題

「研究授業学習指導案」(実際に実施したもの)と「教科教育の教育実習の反省」

上記の課題について、行った教育実習と教職課程の各科目の教科書を参考に論述すること。

\*課題については学習指導書を必ず参照すること。

## 授業計画



## [オリエンテーション]

この授業科目の目的や具体的な学習内容などを説明する。各自から提出されたオリエンテーション課題により、討議や質疑応答なども行う

## [通信授業]

教育実習を終えて、学校教育全般についての学習の総まとめとして、通信課題に取り組み、教員として能力の向上のための自分自身の課題を明確にする。

## [面接授業]

教育実習を終えて、教科教育などの学習の総まとめとして、演習に参加して、教員として能力の向上のための自分自身の課題を明確にする。

- ・ 前提講義
- ・ 設定したテーマと各自の面接授業課題レポートに基づく発表と討議
- ・ 講評

## 成績評価の方法

面接授業の講評などを基に評価する。この授業科目は教育職員免許法施行規則の改正による新課程で追加となった授業科目として、厳正な成績評価が求められるもので、オリエンテーション提出物から面接授業講評にいたる情報のほか、毎年度の履修カルテ等の提出物、教育実習の状況等をふくめて担当教員全員の合議による評価を行う。

履修条件及び履修年次	<p>[履修年次] 4年次</p> <p>[履修条件] 教職課程に登録していること。当該年度内に教育実習を行う予定であるか、前年度までに教育実習を終了していること。 「教育実習Ⅰ」(中学1種・高校1種)または「教育実習Ⅱ」(中学1種のみ)、「教育実践の研究」の単位を修得しているか、同時に履修登録していること。</p> <p>[備考] オリエンテーションを受け、さらに通信授業に合格したうえで、面接授業を受講する。必ず教育実習を終えてから通信授業課題に取り組むこと(日程等の都合上、「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」の単位が未修得である場合も通信授業課題の提出可能)。教育実習が中止となった場合は、オリエンテーションの受講はできない。</p>
------------	--

教材等	<p>教科書：『美術教育の動向』大坪圭輔／三澤一実編(武蔵野美術大学出版局 2009年)</p> <p>学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成30年度』 (武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年)</p>
-----	--

その他	<p>平成24年度までに「教職総合演習」の単位修得をした者(旧課程適用者)はこの授業科目を履修する必要はないが、旧課程適用者でも平成24年度までに「教職総合演習」の単位修得ができなかった場合は、この授業科目の履修が必要となる。</p>
-----	---

1800

## 介護等体験

2単位（通信授業1単位、面接授業1単位）

高橋陽一教授、葉山登講師

## 授業の概要と目標

本授業科目は、介護等体験特例法によって小中学校の免許状授与にあたって義務づけられた介護などの体験とその事前事後指導である。介護等体験では、社会福祉施設や特別支援学校において合計7日間の介護、介助、交流などを行う。この授業では、介護等体験をするにあたっての準備を整え、7日間を自分にとっても高齢者・障害者にとっても有意義に過ごしていくものである。また、介護等体験の終了後にその記録を作成して、これからの教育実践に生かしていくことをも目標とする。

## 課題の概要

## ○オリエンテーション課題

オリエンテーション前に『介護等体験ガイドブック』を熟読し、介護等体験を行うにあたっての考えをレポートすること。

## ○面接授業課題

介護等体験を踏まえて『介護等体験ガイドブック』のなかの日誌部分に記録し、介護等体験終了レポートと共に提出すること。

## 授業計画

## [オリエンテーション]

『介護等体験ガイドブック』を熟読し、介護等体験の理念や在り方、社会福祉の意義などを考え、これらをレポートにまとめてオリエンテーション時に提出すること。

## [面接授業]

各社会福祉協議会及び教育委員会の定める手続きに従い、原則的には特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間の合計7日間の介護等体験を行う。実際の日程や内容などは、学校や施設により異なる。この介護等体験にあたっては毎日の日誌をつけ、記録を作成すること。

## 成績評価の方法

提出されたレポート、オリエンテーションの出席状況、介護等体験の内容と記録を合わせて採点する。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 教職課程（別表第1適用の中学1種〔美術〕）に登録していること。

[備考] 2年次以降にオリエンテーションを受け、翌年度に介護等体験を行う。オリエンテーション受講年度と介護等体験受講年度に履修登録が必要。

## 教材等

『介護等体験ガイドブック』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程）

## その他

地域ごとに定められた手続きに従い、各種の調整など学生の責任において行うことが多い。また実施日程は受入施設等の予定にあわせることになる。その他、定められたルールや条件を満たした場合のみ実施が可能となるので、十分な自覚をもって臨む必要がある。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。